



清水町では、町ぐるみで子どもたちを育てていくコミュニティ・スクールが進められています。まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が心配され、様々な制約がある中でも、子どもたちは生き生きと活動しています。今月号も町民とのかかわりを中心に、子どもたちの様子をお伝えいたします。

しみず保育所

出初式で日本の伝統文化を拝見！

1月7日、消防団の方による出初式を観覧しに行きました。



3歳児と5歳児と一緒に手を繋いで♪4歳児は友達とお正月の話で盛り上がりながら向かいました。

今か今かと待つ子どもたち…消防車や関係車両が続々登場すると「沢山来たー！」と既に大興奮でした。

そして消防団の方たちが登場すると一気に厳肅な雰囲気になり、子どもたちも静かにじっと

見つめていました。

梯子のぼりが始まると、圧倒され「すごい…」と小声の子どもたち、次第に友達と「すごいね！」「高いね！」と驚きを共有していました。技が決まると拍手喝采！「男の子はみんなできるの？」と言う女の子の声に、すかさず「いや、できない。」と答えていた男の子たちでした。

間近で消防団の方の勇姿を見ることができ、子どもたちの憧れとなったことでしょ



う。

町の方たちに守られている安心感を抱くと共に、防災に対してより関心を高めた1日となりました。今回のことを機に子どもたちと防災についてより意識を高めていきたいと思えます。今年1年みんなが笑顔で素敵な1年となりますように…♪

御影こども園

中学生が体験学習に来てくれました

御影中学3年生が授業の一環として、こども園に遊びに来てくれました。大きいお兄さん、お姉さんたちを見て、ワクワクドキドキの子どもたち。



「宝探し・しっぽとり・爆弾ゲーム・手つなぎ鬼」等の遊びを各部屋に分かれて楽しみました。「3匹のこぶた」の劇では、知っている内容の話だったので家が飛ばされるたびに大笑いしたり、宝探しでは色々な形に折られたキラキラ折り紙を頑張って探したりと楽しい時間を過ごしました。

初めは、緊張していた子どもたちでしたが中学生が優しく声をかけリードしてくれたおかげで、会話をしたり「楽しかったよ」と思いを伝えたりすることができました。

楽しい時間もすぐに過ぎ、さよならの時間。

「まだ遊びたかった」「また今度遊べる？」等の声が聞かれとても楽しかったようです。

最後は、バスに乗り込む姿を「バイバイ！また来てね！」と見送りました。



清水幼稚園

「ぼうさいダック」の取り組み

1月18日、幼稚園も3学期が始まりました。子どもたちは寒さにもコロナにも負けないで元気に過ごしています。



地震の時の頭を守るポーズ

さて、幼稚園も本来であれば地域の方との交流の場がたくさんあるのですが、コロナ禍のため今年度も中止になったり、制限して開催したりしました。

その中で、今回は系統的・体系的な防災教育を推進するため、地域コミュニティの核となる学校において、家庭や地域と連携して行う「一日防災学校」の一つとして年長のばら組が

「ぼうさいダック」を実施しました。

「ぼうさいダック」は安心・安全の「最初の第一歩」を子どもたちに実際に身体を動かし声をだして遊びながら学ぶためのカードゲームです。

まず、先生の示す8枚の防災カードで対応の行動ポーズを覚えさせました。その後、カードを使って、「ぼうさいダック」ゲームを行い、子どもたちは、カードに応じて素早く対応の行動ポーズを取っていました。真剣にゲームに取り組む様子から防災への意識への高まりを感じました。



台風の時の情報を聞くためのポーズ

清水小学校

やっとスケートリンクが完成しました



最近、例年積雪が遅く、今季はやっと降ったかと思えば、1月11日から次の日の朝にかけて50cmを超えるドカ雪で、雪が多すぎて圧雪するのもうまくいかず、なかなかスケートリンクの造成が進みませんでした。そうこうしている間に3学期が始まり、

スケートリンクが完成しないまま学校
がスタートしてしまいましたが、1月2
3日(日)、やっと清水小学校スケートリ
ンクをオープンすることができました。

初日は冷え込みが厳しい朝でしたが、
晴天で風もなく、絶好のスケート日和で
した。多少凸凹があり、決していいリン
クコンディションとはいえませんでした
が、たくさんの子どもたちが来てくれ
ました。



月曜日からは体育のスケート授業も始まり、各学年とも久しぶりの氷の感触
を楽しんでいました。特に1年生は初めてのスケート授業でしたが、靴ひも結び
で来て下さった保護者の皆さんの前で、よちよちでもかんばってスケートをす
る姿を見せていました。

御影小学校

「チャレンジ」～御影スケートリンク～

今年の冬もクリスマス寒波が到来し、日本海側に大雪を降らせました。

一方、清水町御影は気持ちの良い十勝晴れです。けれども、スケートリンク造
成には天敵です。このようなシーズンが3年続きました。

今年はその雪のない中、委員長さんの鶴の一声で造成が始まりました。水を地
面に直撒きです。例年は、「雪を踏み固め、雪のお皿を作り、その上に水を撒き、
網を引いて完成させる。」ですが、お父さんたちには、何とか子ども達のため、
3学期に間に合わせたい思いが募っていました。

何ととっても、御影リンクは400mリンクです。面積も200mの3倍はあ
ります。雪のお皿がないものですから、最初から水量全開です。当然水はどんど
ん地面に吸い込まれます。散水車も2台がピストン運転でフル稼働です。不安
な数日を過ごしましたが、水の吸い込みが止まり、「氷の岩盤」ができ上がしま
した。年末に保護者のお一人が試走してみると、雪のお皿を造っていた以上に、
滑走面がデコボコせず完成に近づいているのです。年初めよりリンクが開かれ、

多くの子ども達が滑り始めました。

ところが、自然は一筋縄ではいきません。1月も一週を過ぎるあたりから、暖気が入ってきました。直撒きは雪のお皿と比べ、地面、建物、天候等、様々な条件で管理が大きく異なります。暖気は予想以上に氷を緩ませます。何とかしのいだかと思った頃に、50cmを超える大雪を迎えました。



今年のリンク造成は本当にチャレンジの連続だったと思います。例年以上に神経を使いながらの散水、夕方から夜遅くまで、時には早朝からの作業に頭が下がります。

令和3年度も、リンク造成委員会・PTAの皆様による造成・維持散水、本当にありがとうございました。

本校の子どもたちが、感謝の気持ちをもちながら、十勝ならではの冬のスポーツに親しみ、心身ともにたくましく健康に成長してくれることを願っています。

清水中学校

3年生スキー学習～ゲレンデに描いた軌跡～

それは華麗なシュプールかそれとも・・・

1月21日(金)と25日(火)の2日間、3年生のスキー学習が行われました。雪不足から実施が危ぶまれましたが、年明けの大雪もあり、滑り込みセーフで2年ぶりの実施となりました。とはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大もあり油断はできません。いつも以上に念入りに感染対策をしながらのスキーです。しかも、みんな3年生。受験真っ只



中のこの時期、怪我をするわけにはいきません。そして雪の斜面は滑っても、受験は・・・どちらもしっかり準備して臨むことが大切です。

今回は4名の講師の方が来てくださり、講師の中には山下教育長もいらして、ちょっとびっくり。後で華麗な滑りを披露してくださったそうです。

挨拶を終え、注意事項を伝えられた後、準備体操で体を整えます。技能別の4グループに分かれ練習の開始です。早速リフトに乗って山頂を目指すグループもあれば、平地で移動する練習をしている初心者もいます。一生懸命な姿に好感がもてます。2日目には上達した姿を見せられたのでしょうか。

後日、ロッジでの行動をスキー場の方に褒めていただいた話を聞きました。レンタルスキーの返却がたいへん丁寧で、荷物の並べ方もきれいだったそうです。こんな学校見たことないよと言っていたら、社交辞令だとしても、今後に向けたたいへん励みになったのはまちがいありません。次年度以降も何卒よろしくお願い致します。

新型コロナウイルス感染拡大を受け一層の警戒が必要となってきた中、多くの皆様のお力添えによりスキー学習を実施することができました。お世話になった講師の皆さん、お忙しい中ありがとうございました。



御影中学校

命の学習

本校では、3年間を通して「命の学習」に取り組んでいます。

毎年、11月～12月にかけて、各学年で養護教諭や清水町保健福祉課の保健師の方々を講師にお招きして、授業を行っています。



1年生の授業では、生命誕生に関するお話や妊婦体験を通して自分自身も大切に思われながら誕生したかけがえのない存在であることを再確認しました。

2年生の授業では、保健師さんお二人に、個人差や性差、パーソナルスペースのお話をいただき、様々な事例について、どんなアドバイスが



できるかとグループ毎のディスカッションを行いました。また、授業の後半では、赤ちゃん人形を使い実際のお世話の仕方を教わり、自分たちもこんな風に愛情をもらって育てられたのだと再確認しました。

3年生の授業では、自分と自分の大切な人を守るための常識についてお話しいただき、3年間のまとめとして、これからの自分自身の生き方の問題として捉え、健康で安全な生活を営む態度を育みました。

それぞれの学年において、大変有意義な授業となりました。保健師の皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。

